

「幹細胞の培養法・培養工学のためのコンソーシアム」 第10回シンポジウム

多能性幹細胞の培養法と培養工学の発展と融合は、目的に応じた細胞を大量に必要とする再生医療では極めて重要であると考えられ、産学が一体となり、その要素技術を持ち寄って議論できる産学コンソーシアムを設立し、例年シンポジウムを開催してまいりました。この度、iPS/ES細胞や間葉系幹細胞の培養法・培養工学の融合のための成果発表、議論の場として、第10回シンポジウムを開催させて頂きたく、ご案内申し上げます。本年度は、iPS細胞発見20周年、並びに、本シンポジウム第10回目開催という節目の年にあたり、実用化を牽引する企業の皆様によるご講演に加え、産学の有識者によるパネルディスカッションを企画しております。培養法・培養工学の最新動向と今後の展望や課題について議論を深める場としたいと考えております。

日時：2026年10月17日（土）

時間：講演会13：00～17：00 情報交換会17：00～18：00（予定）

場所：大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館（現地開催のみ）

参加受付URL：<https://forms.cloud.microsoft/r/g4AYmamJ6A>

参加費：無料（情報交換会も上記URLよりお申し込み下さい）

定員：250名*

*定員を超えるお申込をいただいた場合は、調整させていただく場合がございます。

共同主催：大阪大学 大学院工学研究科

（テクノアリーナ最先端研究拠点「細胞製造コトづくり拠点」）

後援：バイオコミュニティ関西（BioCK）・一般社団法人 日本再生医療学会

【開会挨拶】

13:00- 紀ノ岡 正博 先生（大阪大学 大学院工学研究科）

【特別講演】（講演50分・質疑応答10分）

13:05- 座長：紀ノ岡 正博 先生（大阪大学 大学院工学研究科）

「オルガノイドを用いたバイオ人工肝臓治療」

武部 貴則 先生

大阪大学 大学院医学系研究科/ヒューマン・メタバース疾患研究拠点 教授

東京科学大学 総合研究院ヒト生物学研究ユニット 教授

シンシナティ小児病院 幹細胞・オルガノイド医療研究センター 副センター長/教授

横浜市立大学 コミュニケーション・デザイン・センター センター長

【休憩 14:05-14:15】

【講演】（講演20分、質疑応答15分）

14:15- 座長：関口 清俊 先生（大阪大学 蛋白質研究所 マトリクソーム共同研究部門）

①「日本発の細胞大量製造技術を輸出産業へ VMaCSの挑戦」

田中 雅教 先生 クオリプス^(株) 新規事業部 部長/VMaCS事務局長

②「iPS細胞由来臍島細胞の製造法開発」

小長谷 周平 先生 オリヅルセラピューティクス^(株) 臍島細胞治療事業部 CMC製造グループ 主任研究員

③「iPSC由来CAR-T製品の開発と大量製造プロセス構築への取り組み」

林 哲司 先生 Alloy Therapeutics^(株) Head of CMC and Manufacturing

【休憩 16:00-16:10】

【パネルディスカッション】

16:10- ファシリテーター：紀ノ岡 正博 先生（大阪大学 大学院工学研究科）

登壇者：関口 清俊 先生、武部 貴則 先生、田中 雅教 先生、小長谷 周平 先生、林 哲司 先生

【閉会挨拶】

16:55- 関口 清俊 先生（大阪大学 蛋白質研究所 マトリクソーム共同研究部門）

【情報交換会】17:00-18:00 銀杏会館2階 レストランミネルバにて

事務局：味の素^(株) 伊藤・千葉

(E-mail：stemfit@asv.ajinomoto.com)

ご参加お申込み：「幹細胞の培養法・
培養工学のためのコンソーシアム」第10
回シンポジウム(2026年10月17日)

